

1. 調査報告概要表

作成日 2008年10月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1570301299
法人名	社会福祉法人 上越あたご福祉会
事業所名	グループホーム大潟
所在地 (電話番号)	新潟県上越市大潟区土底浜978番地1 (電話) 025-534-6517
評価機関名	エム・エム・シー総合コンサルティング 株式会社
所在地	新潟県上越市富岡3446
訪問調査日	平成20年9月24日

【情報提供票より】(平成20年9月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	18 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 16 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建て	2 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	11,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費:13,000円、理美容代・おむつ代:実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年9月12日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.06 歳	最低	62 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人国立病院機構犀潟病院・中島歯科医院・内山医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

車の通りの多い国道8号線から少し入った、緑に囲まれた小高い敷地にデイサービスと併設されたホームがあります。敷地が広く、緑も多いため、天気の良い日はお茶や昼食、お花見などをされています。
お伺いし評価全般を通して、ムードメーカーで相談役の管理者を中心に統率のとれた組織となっており、利用者個々に合わせたしっかりとしたケアが行われているという印象を受けました。
今回課題としてあがったものについては、全くできていないということではなく、より上のレベルを目指しクオリティーアップを図っていただきたいという意図のものとなっています。
職員間のコミュニケーション、連携の良さを武器に、課題の改善に取組まれることを期待します。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の際、課題となった栄養管理に関しては、法人の管理栄養士から毎週チェックを受け、衛生管理も含めて指導を受けるようになりました。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価に関しては、事前に説明会・勉強会を開催した上で、全職員で自己評価を分担して行い、ユニット会議にてまとめられました。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回開催され、メンバーは毎回ほぼ全員出席されています。報告の他、町内会長からの地域の情報提供など、活発な意見交換が行われ、事業所・家族・地域の連携の場となっています。会議を通じ、敷地内整備の協力を得ることや、グループホームを理解してもらうための勉強会の計画など、具体的な活動へとつなげられています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情相談窓口の設置、アンケートの実施が行われていますが、率直な意見を十分に把握するには限界を感じられている状況です。また、家族会の設置はされていないため、家族会という型式にこだわる必要はないと思いますが、懇親会のような場を行事を行う際など設けるなど、家族が意見を言い易い機会を検討されることを期待します。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入したことにより、ボランティアの申込み、敬老会への参加、お祭りの際にみこしに来てもらうなどの行事の機会が増えています。また、買い物の際などに、地域の人から声をかけてもらうことなど、日常的な交流も行われています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員を対象にアンケートを実施し、法人の理念の見直しが行われました。また、法人の理念をもとに、事業所独自の事業計画として「基本方針」「重点目標」「サービス指針」「活動目標」へと具体化がされています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1ヶ月に1回のユニット会議、1～2ヶ月に1回の委員会の際に「文章ではなく体で覚える」よう周知徹底と具体化のための検討が行われ、ケアプランに反映されています。「個々の希望に対して丁寧に対応する」という基本方針は、利用者の誕生日は完全に思いをかなえる日とするなどの取組みへとつながられています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族へは利用開始時の説明や日常的に事業所が大切にしていることの説明がされています。また、地域に対しては、運営推進会議の場や、町内会に加入を通じ、地域の方にグループホームを理解してもらうための取組みの計画がされています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入したことにより、ボランティアの申込み、敬老会への参加、お祭りの際にみこしに来てもらうなどの行事の機会が増えています。また、買い物の際などに、地域の人から声をかけてもらうことなど、日常的な交流も行われています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の際、課題となった栄養管理に関しては、法人の管理栄養士から毎週チェックを受け、衛生管理も含めて指導を受けるようになりました。また、今回の評価に関しては、事前に説明会・勉強会を開催した上で、全職員で自己評価を分担して行い、ユニット会議にてまとめられました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催され、メンバーは毎回ほぼ全員出席されています。報告の他、町内会長からの地域の情報提供など、活発な意見交換が行われ、事業所・家族・地域の連携の場となっています。会議を通じ、敷地内整備の協力を得ることや、グループホームを理解してもらうための勉強会の計画など、具体的な活動へとつながられています。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者、総合事務所の班長、保健師など、相談や対応策の検討など好意的かつ協力的な対応であり、事業所への訪問もあります。地域包括支援センターと協力し、地域の方への講習会も計画されています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する外部研修に参加した職員から、ユニット会議にて伝達研修を行い、職員への周知がされています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	随時の電話連絡や1ヶ月に1回の受診の際、面談を実施し担当者から最近の様子を伝える他、利用者一人ひとりのアルバムを作成し、家族に渡すことや、四季ごとに1回発行される広報誌については、アンケートを実施し評価を行うなど、きめの細かい対応がされています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の設置、アンケートの実施が行われていますが、率直な意見を十分に把握するには限界を感じられている状況です。また、家族会の設置はされていません。		家族会という型式にこだわる必要はないと思いますが、懇親会のような場を行事を行う際など設けるなど、家族が意見を言いやすい機会を検討されることを期待します。
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回のユニット会議にて、職員の意見を吸い上げるとともに、1年に1回「自己申告書」という形で、全職員が法人に対して相談や意見を出せる機会や、面談などの場が設けられています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動の実数は多めでしたが、申送り・日誌・生活記録などにより情報を共有が図られています。また、異動際には家族に対する電話や面談による挨拶やお別れ会の実施、行事の際に異動した職員と交流を行うなど、ダメージを防ぐ配慮が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	業務マニュアル・危機管理マニュアルなど、必要なマニュアルは完備されており、必要に応じて見直しや追加などが行われています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修・中堅職員研修・管理者研修・救命救急・応急手当などの内部研修や、さまざまな外部研修への参加と伝達研修、資格取得の推奨などが行われています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所とは管理者会議などを通じ、情報交換が行われていますが、他法人の事業所との交流に関しては課題が残ります。		法人内の他事業所とも協力し、他法人の事業所との見学・相互研修・交流などの機会を設けることを期待します。
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩や勤務シフトへの配慮や、定期的な面談が実施されています。また、リーダーが中心となり、ユニット内のコミュニケーションが良好に保たれています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学・面談・事前面接・入所判定会議など、利用開始にあたり、十分に相互理解を深める機会が設けられています。また、より利用者の情報を把握できるように、センター方式のアセスメントへの変更や、事前に荷物を搬入し、スムーズに入所できるように工夫がされています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者の側にいられる時間が多くなるよう、家事作業などを職員と利用者が一緒に行われています。また、畑作業やちまき・梅干・たくあん漬けなど、利用者が得意とすることは、職員が教えられる場面があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族がボランティアとして参加されることや、雑巾・タオル・インレットペーパーなどの寄付をいただくなど、家族と事業所が一体になって利用者を支える関係が構築されています。また、状態悪化に伴い、事業所を出なければならぬのではないかとという家族の不安を解消するよう、丁寧に対応がされています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際の情報収集とともに、日常のコミュニケーションから得られた情報を活動記録に記載がされていますが、記載された情報が十分に活用しきれていない状況です。		例えば、1ヶ月に1のモニタリングの機会などに、1ヶ月間の活動記録を振り返り、アセスメントへの情報の追加やケアプランの反映などにつなげていくことを期待します。
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	意向の把握と同様に、アセスメントの際の情報収集とともに、日常のコミュニケーションから得られた情報を活動記録に記載がされていますが、記載された情報が十分に活用しきれていない状況です。		意向の把握と同様に、例えば、1ヶ月に1のモニタリングの機会などに、1ヶ月間の活動記録を振り返り、アセスメントへの情報の追加やケアプランの反映などにつなげていくことを期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントにて状態や要望等を把握した上で、暫定プランを作成し、2週間実際のケアを行った様子を踏まえ、ユニット会議にて職員の意見を組み入れプランの作成が行われています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ユニット会議でのモニタリングを踏まえ、ケアプラン会議にて定期的な見直しが行われています。見直し・更新の際は必ず家族に確認が取られています。また、状態の変化がある場合には期間に関係なく、随時の見直しが行われています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が遠方の場合や都合の悪い際の医療機関への定期受診の職員が付き添いや、家族や友人の宿泊の希望にも柔軟に対応されています。また、市のオムツ支給や理美容の仲介を行うことで家族の負担の軽減が図られています。加えて、併設のデイサービスセンターの機能訓練やお風呂、行事などを共有することで、生活のリズムに変化をつけるなどの対応も取られています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症専門の医療機関での受診を勧めていますが、本人・家族の希望する医療機関での受診が尊重されています。受診の際はサマリーや生活記録など必要な情報を書面にて同行される家族に渡すと共に、必要に応じて医師への電話での確認や職員の同行も行われています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りを行う方向へ動き始めたところで、法人や事業所としての方針の確立や設備の整備、人材の育成は今後の課題となっています。		法人や事業所としての具体的な方針の確立と共有、その際必要な設備の整備、本部の看護師や地域包括の協力を得て、看取りに対応できる人材の育成のための研修、家族の理解を得るための勉強会などを進めていかれることを期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報は利用目的を明確にし、適切な取扱いが行われています。また、声かけなどの羞恥心への配慮は、接遇・マナー研修の実施や管理者による適宜の注意によりしっかりと対応がとられています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな日課はあるものの、無理強いせず、喫煙や寝坊など職員が融通をきかせて、好きなことが行えるよう支援されています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳など、利用者の能力に応じて共に行うとともに、メニューは利用者とは相談し、敷地内の畑から収穫した旬の野菜を食材に取り入れるなどの工夫がされています。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の状態に応じて排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握した上で、トイレ誘導を行い、気持ちよく排泄できるよう支援がされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間に幅を持たせ、利用者のその日の希望を確認し入浴が行われています。また、利用者同士での入浴や、併設デイサービスの大浴場の利用なども行われています。拒否のある利用者への対応も声かけの工夫を職員で共有し、連携を図りタイミングよく行われています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割・日課として、家事仕事や軽作業、畑仕事などが利用者の得意分野に合わせて行われています。また、併設デイサービスのレクやボランティアへの参加も行われています。他の利用者の世話をすることが役割として張り合いとなっている利用者もいます。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩などの日常的な外出。祭りや温泉などの行事や施設への参加もボランティアの協力を得ながら行われています。また、敷地内が広く緑も多いため、お茶や昼食、お花見なども頻繁に行われています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議などの場を活用し、外部研修参加者からの伝達研修やケース検討が行われ、意識の統一が図られています。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者個々の行動パターンの把握と共有、定期的な確認、併設デイサービスや1階の事務所(グループホームは2階)との連携により、日中は玄関の鍵をかけないケアが行われています。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒアリハットノート、事故報告とその後のカンファレンスにより、情報の共有と再発防止策が検討されています。また、未然に危険を防ぐため、利用者個々の状態を詳細に記したフェイスシートを作成するなど、継続的な事故防止への取組みが行われています。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的、継続的に救命救急講習・応急処置の研修が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルの完備。防災委員会による連絡体制の検討。併設デイサービスと合同の避難訓練。消防署による避難訓練。地域の防災協力員による災害訓練など、多岐に渡った災害対策が行われています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月、法人の管理栄養士によるチェックとアドバイスが行われ、注意が必要な利用者に関してはケアプランへの反映が行われています。また、定期的な水分補給も行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールを中心に2つのユニットが構成され、非常にゆとりある空間になっていますが、適度な装飾により寒々しさを感じることはありません。残念なことに1階の入口付近が事務的な淋しい印象となっけてしまっています。		1階入口に関して、機材などを片付け、植木などを置くことで、事務的な印象と寂しさが無くなることを期待します。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物や写真など、落ち着ける空間作りへの配慮がされています。また、家族に対しても継続的に使い慣れた家具等の持込みの依頼が行われています。		